②第15回 大商大ビジネス・アイディアコンテスト



「世に役立つ人物の養成」を建学の理念とする本学では、ビジネス社会における諸問題を発見・解決できる能力の育成を目指し、起業家精神あふれる人材を育成しようとする取組の一環として「ビジネス・アイディアコンテスト」を開催しています。

起業家精神の涵養と起業家的な資質・能力の育成を目標として、本学の学生・大学院生を対象として2003年度から毎年実施する新しい商品・サービスやビジネスモデルのアイディアを競うコンテストです。

2017年度実施の第15回は、自由部門と企業からの課題に取組む課題部門を設定し、課題提供企業として今年度から新たに２社にご参画いただくことになりました。旭電機化成株式会社、フジ矢株式会社、マツダ紙工業株式会社の３社に課題を提供していただき、審査等全般においてご協力いただきました。

平成29年４月17日㈪・19日㈬・24日㈪には自由部門（全体）説明会、４月18日㈫・20日㈭・25日㈫には、課題提供企業の代表者の方に来ていただき、計６回の説明会を開催しました。

今年度は、971件（自由部門756件、課題部門215件）の応募があり、第１次審査で57件が通過し、第２次審査で８件のアイディアが最終審査に進みました。

また、第１次審査通過者を対象としたサポートプログラムとして、プレゼン道場（アイディアブラッシュアップ講座）を平成29年９月５日㈫、７日㈭、８日㈮の計３日間（10：00～13：30）実施しました。１日目は、プレゼンテーションの基礎から自己紹介を使った１分間のプレゼンテーションの練習、２日目は、実際に審査会場となる場所でのプレゼンテーション体験を実施し、最終日は第２次審査直前対策として最後の練習を行いました。今年度は、コンテストを活用した自己PRの方法等学生自身の就職活動に結びつくことも意識させるような内容で実施しました。



10月28日㈯には、ファイナリスト８名のプレゼンテーション審査と課題提供企業の企業賞を受賞した３名のプレゼンテーションを実施し、また昨年のファイナリスト２名による海外ビジネス研修の報告を行いました。



審査の結果、学長賞、副学長賞、東大阪商工会議所会頭賞、特定非営利活動法人東大阪地域活性化支援機構理事長賞各１名、審査員特別賞４名が決定しました。

上位４名には副賞として、世界の動向を肌で感じられる機会となる海外ビジネス研修が贈られました。海外ビジネス研修は、国を越え現地の方と心を通わせることによって、いつまでもあせることのない思い出と人間関係を築き、その国の良さを知り、同時に日本の良さにも気づくことの出来る機会となりました。

今後も学生があらゆる場面でいろいろな経験・体験ができるプログラムを構築し、起業家精神あふれる人材を育成したいと考えています。

また、第15回大商大ビジネス・アイディアコンテストの運営は、コンテストに関わった経験のある学生が中心となり、受賞者・審査員の誘導、司会、ステージマネジメント、賞状授与のサポートなどを担当しました。

【運営スタッフの紹介】



前列左側から
- 商学科　３年　田村光莉さん
- 経営学科　３年　帖佐晴菜さん
- 経営学科　２年　窪田遊来さん

後列左側から
- 公共経営学科　３年　河合佑真さん
- 経営学科　３年　廣瀬由幸さん
- 商学科　３年　村尾採歌さん

第15回大商大ビジネス・アイディアコンテスト
受賞アイディア紹介

平成29年10月28日㈯に「大商大ビジネス・アイディアコンテスト　ファイナルプレゼンテーション」が開催されました。

今回応募作品971件の中から第１・２次審査を突破した８名のファイナリストのアイディアをご紹介します。



学長賞を受賞した
藤川功基さんと片山副学長


受賞者と審査員全員で

☆学長賞☆

◉経営学科３年　藤川功基さん◉

【場所を取らない瞬間組み立て子ども椅子】

《課題部門》課題提供企業／マツダ紙工業株式会社



瞬間組み立て子ども椅子とは、平らな段ボールを組み立てて子ども用の椅子を作るというアイディアです。また、このアイディアの最大の魅力は組み立てた椅子を平らな段ボールに戻すことができるため、場所をとらないということです。瞬間で組み立てることができ、仕組みもかなりこだわったことで私も立てるほどの強度にすることができました。また、段ボールなので子どもたちが自由にお絵かきできるなど、独創性を伸ばすことができます。

☆副学長賞☆

◉商学科２年　古川晴加さん◉

【缶たん水分カッター】

《自由部門》



缶たん水分カッターは缶詰のふたを開けるときの問題を解決する商品です。具体的な商品イメージは「やさしーる」という缶詰のふたがアルミのシールで出来た缶詰と、カップ焼きそばの湯切りシステム「穴が開いた部分」を組み合わせた商品です。これをツナ缶に使えば、手がべたべたになるという問題を解決します。また「缶詰の開けづらい」「手を切りそう」という問題も同時に解決します。具と水分が入っている缶詰であれば使用できるため、使い方は無限大に広がります。

☆東大阪商工会議所 会頭賞☆

◉公共経営学科２年　足立芽生さん◉

【バンデライズスカラシップ　～“生涯金融教育型奨学金”～】

《自由部門》



「バンデライズスカラシップ」を一言でいうと学生に資産運用のバーチャルゲームで金融教育を行い、その成果をもとに奨学金を給付する給付制奨学金のサービスです。こちらは非営利のアイディアとして考えました。このサービスは、ただ奨学金を給付するだけではなく、金融教育を通して社会と関わりを持ち、そこから自分を高めていくことも大切にしています。また企業、学生、社会に対してそれぞれメリットがあるサービスです。

☆NPO 法人東大阪地域活性化支援機構 理事長賞☆

◉商学科２年　仲谷さくらさん◉

【マトリョーシカドアストッパー】

《自由部門》



ドアの隙間が小さくて買ってきたドアストッパーがはまらないということがありました。

その時にどんな隙間でもはまるストッパーがあればいいなと思い考えたアイディアが「マトリョーシカドアストッパー」です。大きな隙間から小さな隙間にはまる大きさの違うドアストッパーがマトリョーシカのように次々と出てくるため、その扉にあったモノが見つかるというアイディアです。

☆審査員特別賞☆（４名学年順）

◉経済学科１年　平田敦揮さん◉

【残りがわかるアルミホイル】

《自由部門》

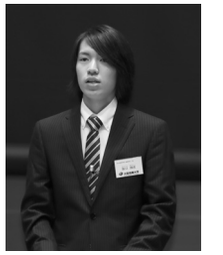


アルミホイルがのこり50㎝になったときに、「のこりわずか」と文字や模様を直接アルミホイルに印字し、残量が一目でわかるという商品です。残りが印字されているため、いきなりアルミホイルがなくなって困るということがなく、使用頻度の高い人でもそうでない人でも便利です。使用頻度の高い人は、残量が一目でわかるのでストックの必要がなくなり買い無駄がなくなります。使用頻度が少ない人でも、残量が少ないことが一目で確認できます。また他のメーカーと明確な差別化ができることも大きな特徴です。

◉経営学科１年　阪口輝虎さん◉

【ラクラク Cut】

《課題部門》課題提供企業／フジ矢株式会社



今回私が考案した「ラクラク Cut」は、家庭用調理器具です。この商品を考案したきっかけは、私の目の前で起きた事故がきっかけで、既存製品では危険が伴い、安心して料理をすることができないと感じたため、より安全で、楽に料理・調理できる器具があれば、と考えたのがきっかけでした。毎日料理をする主婦の方や、お年寄りの方まで気軽に安心して安全に作業できるような商品を考案しました。

◉商学科２年　青野英世さん◉

【ありがとう葉書（贈り物の受領者の便利アイテム）】

《自由部門》



ありがとう葉書は日本郵便のゆうパックの送り状に使用します。ゆうパックの送り状は６枚セットになっています。その６枚目に通信事務郵便がありますが、それをありがとう葉書にチェンジします。ゆうパックの利用者の便利葉書になります。これは日本郵便のゆうパックにだけができるサービスでクロネコヤマト、佐川急便にはできません。日本郵便の郵便事業とゆうパックの宅配事業の総合力でできるサービスです。

◉商学科２年　杉浦正弥さん◉

【断線しにくい君】

《課題部門》課題提供企業／旭電機化成株式会社



私が考えた商品は断線しにくい君です。この商品は、簡単に言うと、家電製品やスマートフォンのコードの断線を防止するアイテムです。断線の原因には、折り曲げて使う、コードを引っ張ったなど色々な原因があげられています。また、断線しショートして、火事になったという事故があり、そのような不便さを解消させるための商品、また事故が１件でも多くなくなればいいなと思い、このような商品を思いつきました。

☆企業賞☆

課題提供企業	旭電機化成株式会社	プラゴミポイ	横井咲樹子さん 経営学科　３年
	フジ矢株式会社	レンチ式ドライバー	内尾啓汰さん 商学科　２年
	マツダ紙工業株式会社	段ボール猫ジム	角田陸太朗さん 経営学科　２年



横井咲樹子さん



内尾啓汰さん



角田陸太朗さん

第15回 大商大ビジネス・アイディアコンテスト

応募開始～ファイナルプレゼンテーションまでの流れ

4/3(月)～　応募受付開始！

4/17(月)・4/18(火)・4/19(水)・4/20(木)・4/24(月)・4/25(火)

【自由部門(全体）説明会】
・平成 29 年 4 月 17 日（月）・19 日(水)・24 日(月） 12:20～12:50

【課題部門説明会】
・平成 29 年 4 月 18 日（火） 12:20～12:50
フジ矢株式会社
「つかむ・まわす・切る・ひっぱる　身近なハンドツール（手工具）」
・平成 29 年 4 月 20 日（木） 12:20～12:50
マツダ紙工業株式会社
「段ボールで作れる！他じゃないようなアイデア」
・平成 29 年 4 月 25 日（火） 12:20～12:50
旭電機株式会社
「リビング・台所で活用できる、かゆいところに手が届く便利グッズ」



7/7(金)　応募締切　971 件の応募がありました!!

応募締切後～7/20(木)　第１次審査（応募書類に基づく書類審査）

7/26(水)～　第１次審査通過者発表　57 件が通過しました!!

9/5(火)・9/7(木)・9/8(金)

ブラッシュアップ講座
第1次審査通過者を対象に第２次審査に向けてプレゼンテーションの方法を学ぶ講座を３日間開催しました。
■プレゼン道場（講師：マイクロワークス株式会社　勝谷 信一郎 氏）
各日 10:00～13:30





9/14(木)　第２次審査（２分間の口頭発表審査）
８名のファイナリスト（最終審査進出者）と３名の企業賞が決定!!

10/28(土) 大学祭2日目　ファイナルプレゼンテーション＆表彰式
プレゼンテーション審査を実施します。

2月　副賞　海外ビジネス研修へ！
（学長賞、副学長賞、東大阪商工会議所会頭賞、NPO 法人東大阪地域活性化支援機構理事長賞の受賞者４名）

本コンテストに関する詳細や、過去の入賞作品は
本学ホームページ→→「大商大ビジネス・アイディアコンテスト」
http://ouc.daishodai.ac.jp/research/at_university/business_idea/　をご覧ください。

第15回大商大 ビジネス・アイディアコンテスト 【課題部門】

課題提供企業・課題紹介

SMILE KIDS	企業名	旭電機化成株式会社
	HP アドレス	http://www.smile-asahi.co.jp
	課題	**「リビング・台所で活用できる、かゆいところに手が届く便利グッズ」**
皆さんの家の中で使える便利グッズのアイデアを募集します。自分が作れないような非現実的なものではなく、ちょっとした工夫で便利になるグッズを考えて下さい。		

FUJIYA	企業名	フジ矢株式会社
	HP アドレス	http://www.fujiya-kk.com/ja
	課題	**「つかむ・まわす・切る・ひっぱる　身近なハンドツール（手工具）」**
弊社はプロの工事関係者が使うペンチ、ニッパーなどのハンドツールを作っています。ペンチ、ニッパーには「つかむ・まわす・切る・ひっぱる」といった機能がありますが、その機能をもっと身近な生活で「安心・安全」につかえる便利な新しい商品を募集します。 商品のカテゴリーは①DIY　②アウトドア　③キッチン工具		

	企業名	マツダ紙工業株式会社
	HP アドレス	http://www.matsuda-siko.com
	課題	**「段ボールで作れる！他じゃないようなアイデア」**
弊社では、「家族に笑顔　ほっこりした家庭を」をコンセプトに段ボールを使用したエコな商品開発を行っています。それを踏まえアイデアも段ボールで作れる製品提案となります。大阪らしいアイデアやツッコミたくなる様なアイデアでもかまいません。機能性、面白さ、斬新さ様々な方向で考えてください。次の 2 点の題材のアイデアを募集します。　①ペット用品　②子供向け商品		

学生のアイディアが「かたち」に！

旭電機化成株式会社協力のもと
3名の学生のアイディアから4つの商品が発売されました！



「マルチオープナー」「ルーペ付らくらくオープナー」

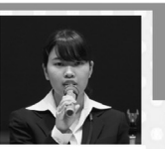


経済学科 3年
中岡智哉さん

『マルチオープナー』『ルーペ付らくらくオープナー』とは、力の弱いお年寄りやネイルをした女性が、ペットボトルやゼリー飲料等のキャップを楽に開けることができ、さらにルーペやドライバーなどの便利な機能も兼ね備えた多機能オープナーです。



中岡智哉さんは、2年前、「第13回大商大ビジネス・アイディアコンテスト」への応募をきっかけに旭電機化成株式会社においてビジネスインターンシップを実施しました。H27.10月から継続して打ち合わせを行い、市場調査、消費者モニター会、東京インターナショナル・ギフトショーへの参加を経て、H28.9月に旭電機化成株式会社の会議にて商品化が決定し、H29.6月に商品として発売されました。



「ねこのコンセントカバー」

商学科 卒業生
平峠佑望さん



『ねこのコンセントカバー』とは、コンセント火災（トラッキング火災）を防ぎ、部屋をオシャレに演出する可愛くて安全なコンセントカバーです。



平峠佑望さんは、大学3年生の時に、「第13回大商大ビジネス・アイディアコンテスト」で東大阪商工会議所会頭賞を受賞（アイディア名「らくらくプラグ～横並びコンセント対応型～」）したことをきっかけに旭電機化成株式会社においてビジネスインターンシップを実施しました。H27.11月から約15回もの打ち合わせを行い、アンケート結果によるアイディアの変更や消費者モニター会でのアンケートの実施を経て、H28.9月に商品化が決定し、H29.3月に商品として発売されました。



「迷惑電話お断りピンポン」



商学科 卒業生
乾由佳さん

『迷惑電話お断りピンポン』とは、ボタンを押して「ピンポーン」と鳴らすことでお客様が来たことを装い、しつこい勧誘や保険の営業などに不快な思いをさせずに電話を切る手助けをしてくれる商品です。



乾由佳さんは、大学2年生の時に「第12回大商大ビジネス・アイディアコンテスト」への応募をきっかけに旭電機化成株式会社においてビジネスインターンシップを実施しました。H26.10月から約20回もの打ち合わせを行い、アンケート調査、商品承認会議（旭電機化成株式会社）でのプレゼンテーションを経て、H28.9月に商品化が決定し、H29.6月に商品として発売されました。

【旭電機化成㈱について】昭和8年の創業以来、プラスチックの成型を中心に最近ではプラスチックを有効に利用したオリジナル商品を開発。自社製品開発に企画提案制度を導入し、自社はもちろんのこと、一般の方からのアイディアも商品化している企業。

海外ビジネス研修　(2018.2.7~2.11　ベトナム)

コンテストの副賞として、世界の動向を肌で感じられる海外ビジネス研修を実施しています。
この海外ビジネス研修では、国を越え現地の方と心を通わせることによって、いつまでも色あせることのない思い出と人間関係を構築し、その国の良さを知り、同時に日本の良さにも気づくことを目的としています。今年度は、現地家庭へのホームビジットや現地学生との交流を通して異文化を感じ、現地で活躍する日系企業代表者へのインタビューや日系企業の工場を視察することで起業家精神を養う機会を得るプログラムを実施しました。

1日目 2／7(水)
関西国際空港 10:30発／タンソンニャット空港 14:25着
午後　市内観光　統一教会／サイゴン大教会等
夕刻　ホテル着




2日目 2／8(木)
午前　日系企業視察　TAGGER TRAVEL
午後　日系企業視察　KIRIN
夕刻　ホテル着








3日目 2／9(金)
午前　ホームビジット先　カイベー・ヴィンロンへ
午後　ホームビジット体験　現地家庭の方々と昼食作り　昼食・交流
夕刻　ホテル着




4日目 2／10(土)
午前　自由散策
午後　B&S プログラム　現地ベトナム人学生との交流




5日目 2／11(日)
タンソンニャット空港 0:20発／関西国際空港 7:00着

これまでの海外ビジネス研修

第1回(2003年度)	第2回(2004年度)	第3回(2005年度)	第4回(2006年度)	第5回(2007年度)	第6回(2008年度)
中国	韓国	台湾	韓国	中国	フィリピン(セブ)
第7回(2009年度)	第8回(2010年度)	第9回(2011年度)	第10回(2012年度)	第11回(2013年度)	第12回(2014年度)
沖縄※	ベトナム(ハノイ)	台湾	マレーシア	ベトナム(ホーチミン)	フィリピン(セブ)
第13回(2015年度)	第14回(2016年度)	第15回(2017年度)			
マレーシア(クアラルンプール)	中国(香港)	ベトナム(ホーチミン)			

※新型インフルエンザの世界的な流行により国内旅行を実施

海外ビジネス研修説明会・事前学習

海外ビジネス研修（2018.2.7~2.11）ベトナムの事前学習として、近畿日本ツーリスト株式会社による異文化理解のための自己分析、現地の企業視察に備え、事前に自分達で考えるワークショップを実施しました。

ビジネス研修説明会

第1回　平成29年11月6日(月)　12：15~12：55
●概要・内容・渡航手続き・海外旅行傷害保険等



第2回　平成30年1月18日(木)　16：20~17：50
●最終行程説明

ビジネス研修事前学習

第1回　平成29年11月16日(木)　16：20~17： 50
「主体性・関係性・多様性を考えるワークショップ」
・「自分について知ろう」　研修参加の目的の設定など



第2回　平成29年12月7日(木)　16：20~17： 50
「主体性・関係性・多様性を考えるワークショップ」
・「コミュニケーションを考えよう」
ホームビジットなど現地の人との円滑なコミュニケーションについて



第3回　平成30年1月18日(木)　16：20~17：50
「現地訪問について」
・海外で働く、起業などをキーワードとして現地での質問内容について
・研修を終えての自分の理想像、それに向けてのアクションプラン等について



大商大ビジネス・アイディアコンテスト 受賞作品一覧

第1回（2003年度）

学長賞	●流通学科１年	木村大樹 「イヤホンのコードがからまない商品」 主にウォークマンに使われるイヤホンの長いコードを絡むことなく収納し、手軽に携帯、取り出せることができる。絡むことをなくすことで、コードの切断等の故障も防ぐことができる。
副学長賞	●流通学科２年	下前正樹 「健康測定機能付き携帯電話」
エクステンションセンター長賞	●経営学科２年	竹田英之 「電車事故配信システム」
	●経営学科３年	竹田英司 「駅前コミュニケーションショップ」
審査員特別賞	●経営学科１年	永野晶子 「大商大『新・学生レストラン』」
	●経営学科１年	山倉正稔 「スポーツ用品のお試しサービス」
	●流通学科２年	木野将喜 「漢字請負サービス～一心屋」
	●流通学科４年	橋本寛之 「ファッションクリエイト」

第2回（2004年度）

学長賞	●経営学科４年	竹田英司 「コミュニティ・ビジネス和履時代屋」 実家が祖父の代から始まる「和装履き」の生産者であることから、この地域の衰退を少しでも改善しようと考えた。和履教室を開き、顧客自ら作った「和装履き」を歩いて地元の観光地・信貴山を歩く他、陶芸教室も開き地域の特徴を活かしたコミュニティ・ビジネスを提案したい。
副学長賞	●流通学科３年	下前正樹 「芸術品レンタルサービス『アートネット』」
東大阪商工会議所会頭賞	●経営学科３年	赤田健 「ちょいベル」
NPO 法人 東大阪地域活性化支援機構理事長賞	●流通学科２年	松田拓朗 「『レンタル状況』インフォメーション」
審査員特別賞	●流通学科１年	川本大智 「カード式レシート」
	●経営学科１年	野嶋将光 「柄を付けるスポンジ」
	●流通学科１年	前田浩太郎 「CD 検索・視聴サービス～ミュージック・チェッカー～」
	●経済学科２年	田中敬一郎 「Monkey Mammy（モンキー・マミー）」
	●経営学科３年	大築渉 「訪問セールスお断り!! 通過人数指定オートロックセキュリティーシステム」
	●経済学科３年	林保明 「シートベルト着用ランプ」

第3回（2005年度）

学長賞	●経済学科１年	山内優美 「病院待合呼び出しサポート！ ～ワイヤレス骨伝導スピーカー～」 病院での待合呼び出しは聞きとれなかったり、聞き逃してしまったりすることが往々にしてある。本企画は、高齢者を中心に小型のワイヤレス式骨伝導スピーカーを、「呼び出しベル」として配布するというもの。骨伝導スピーカーは耳に引っ掛けるタイプとすることで、呼び出し音の伝達を確実にする。高齢化社会における必要性が、高く評価された。
副学長賞	●流通学科３年	島田久 「シミュレーション型インターネット販売 ～シミュレーション・クリック～」
東大阪商工会議所会頭賞	●経営学科２年	戸村純子 「ちょっとしたプライベート企画サービス“Day プラン”」
NPO 法人 東大阪地域活性化支援機構理事長賞	●経営学科３年	桶本泰寛 「暇つぶしナビゲーション」
審査員特別賞	●経営学科１年	浦上康弘 「THE 訪問革靴磨き」
	●経営学科３年	赤佐謙一 「CAOCA（買おかっ）」
	●経済学科３年	川上滋 「e-Fashion-Check」
	●流通学科３年	安崎優 「健康器具の配送レンタルサービス～お手軽健康.com ～」
	●経営学科３年	吉永秀男 「位置けんさくん」

大商大ビジネス・アイディアコンテスト 受賞作品一覧

第4回（2006年度）

学長賞	●経済学科４年	川上滋 「『楽旅』 ～“パズル”方式によるオリジナル旅行プランの作成～」 インターネットのサイト上で、旅行先の観光名所などを「パズル」方式で選択設定し、オリジナル旅行プランを作成するという企画。旅行当日は、携帯電話の WEB 上で行き先案内や時刻表などをリアルタイムで確認できる。
副学長賞	●経営学科３年	戸村純子 「頭と体の健康は食生活から！『BIO レシピ』」
東大阪商工会議所会頭賞	●商学科２年	内藤久稔 「新しいファッション通販～サイズ適合と仮想試着～」
NPO 法人 東大阪地域活性化支援機構理事長賞	●商学科２年	永井春香 「動画とリンクするカタログ販売～ネット融合カタログ～」
審査員特別賞	●経済学科３年	寺脇千紗 「ペットと一緒にエステ～飼い主もペットと癒されよう～」
	●経営学科３年	渕之上和良 「地域密着型アフィリエイトサービスＰステーション」
	●経営学科３年	的場尚也 「犬と一緒にきびだんご～ペットとの一体感を演出します～」

第5回（2007年度）

学長賞	●商学科２年	阿部紫野 「コンビニ～る傘レンタルサービス」 ファミリーマートの発行するファミマカード会員限定で「傘」レンタルするサービス。カード会員は、保証金として100円を払うだけで傘を貸し出し OK！傘を返却することでファミマポイント100pt（１pt ＝１円）が戻ってきます。しかも、全国いつでもどこでも貸出返却可能。このサービスを取り入れることでファミマカード会員の増加が期待できるだけでなく、地球環境問題への対応も行えます。サービスを通して、顧客との関係性を深められるというメリットも。
副学長賞	●商学科３年	数田綾乃 「プチデザイナー SHOP」
東大阪商工会議所会頭賞	●商学科３年	酒井久実 「デートプランブック～シークレットラブストーリー～」
NPO 法人 東大阪地域活性化支援機構理事長賞	●商学科３年	内藤久稔 「Driving lesson for women ～試乗車利用ペーパードライバー教室～」
審査員特別賞	●経営学科１年	礒田徹 「バーチャル・クローゼット」
	●公共経営学２年	枝澤由利 「携帯で『なりたい自分』になるメイク」
	●経済学科３年	椋木崇光 「ブログ留学」
	●経営学科４年	渕之上和良 「呼び出し音を広告に『CM コール』」

第6回（2008年度）

学長賞	●商学科３年	阿部紫野 「QR コードで誰でもやさしいショッピング【UNIQRO】 ～UNIVERSAL × QuickResponse × CLOTHING ～」 洋服ショッピングでわからないことがあったら、タグについている QR コードをピピッ！商品情報＋αをかんたん確認！携帯電話が自分専用のスタッフとなって、障がいのある人にもない人にも快適なショッピングを提供♪
副学長賞	●商学科３年	桑原弘宗 「書けルンです！」
東大阪商工会議所会頭賞	●経営学科１年	菊池宏弥 「プロデビュー.com ～アマチュアからプロアーティストへの登竜門～」
NPO 法人 東大阪地域活性化支援機構理事長賞	●商学科３年	出海朱絵 「ENJOY!! 通販 Life!! ～通販オリジナル商品試着サービス～」
審査員特別賞	●経営学科２年	土居脩司 「広告記載で無料配布ノート」
	●商学科２年	花輪有一 「楽しめ～る切符」
	●経済学科３年	伊藤光平 「サンタで GO!!」

大商大ビジネス・アイディアコンテスト 受賞作品一覧

第7回（2009年度）	学長賞	●経済学科２年　間中貴史　「不合格グッズシリーズ ～本気の人以外はゼッタイに使用しないで下さい！～」 常々思っていた、受験シーズンに流行る多数の「合格グッズ」。いずれも神頼みなど他力本願的なもので、本当に効果のある物かどうか疑わしい。そこで「合格グッズ」に異を唱える形で生み出したのが「不合格グッズ」だった。本当に合格するための物で、中途半端な気持ちで買うのは難しいだろう。
	副学長賞	●経済学科１年　平田拓嗣　「～きちんと捨てて学校を美しく～『ポイントBOX』」
	東大阪商工会議所会頭賞	●商学科４年　出海朱絵　「CSR（小さなキャップで！スマイル増やしてリサイクル!!） ～エコキャップアーティストが地球を笑顔にする～」
	NPO法人 東大阪地域活性化支援機構理事長賞	●商学科２年　清家槙　「プリントらくらくめくれーる」
	審査員特別賞	●経営学科３年　岡本良介　「２段階飲料水」 ●経済学科３年　串田達哉　「～アンテナショップで地方活性化～『田舎屋』」 ●経営学科３年　山本竜太　「二度寝防止クン」

第8回（2010年度）	学長賞	●商学科２年　松村真生　「この傘かったって～」 傘の内側にある開閉時にスライドさせる部分（＝下ろくろ）に付けた２つの突起を、人差し指と中指で引っ掛け、柄の部分を身体に当てて引っ張ります。その結果、片手で閉じられるようになります。また、製作については「平らな面と突起のある型に変えるだけ」＋「機械にたよらない手動」のためのコストが大幅に抑えられます。
	副学長賞	●商学科４年　村上公規　「Twitter × Waiter」
	東大阪商工会議所会頭賞	●経済学科２年　中西明　「なんでもやるゾー!! 小さな仕事 OK!」
	NPO法人 東大阪地域活性化支援機構理事長賞	●経営学科３年　杉山祐脩　「スタンバー!? ～何所でも楽々、装着式傘立て～」
	審査員特別賞	●経営学科１年　白瀬幹雄　「ケータイで簡単！野球場でグルメ注文システム」 ●商学科１年　中郷裕崇　「『もう捨てさせません!!』コンビニ弁当 ～ピピッ！とメールで売れ残りゼロへ～」 ●経済学科３年　阿部竜作　「Akiyado ～空き家を利用した会員制別荘サービスの提案～」

第9回（2011年度）	学長賞	●経営学科２年　岸畑雅美　「パフォーマンスバー」 このアイディアは、披露する場がないアマチュアパフォーマーをターゲットにしたビジネスです。客はバーの食事代金500円につき１枚オリジナルコインがもらえ、そのコインをパフォーマーにチップとして好きなだけ渡します。パフォーマーはもらったコイン１枚につき50円が食事代から割り引かれます。パフォーマーには技術相応のチップが支払われ、向上心の向上になります。
	副学長賞	●経営学科３年　遠藤元大　「旅行なう」
	東大阪商工会議所会頭賞	●経済学科３年　和田悠　「eye 棒」
	NPO法人 東大阪地域活性化支援機構理事長賞	●商学科２年　岡本梨沙　「100kcal お惣菜屋さん」
	審査員特別賞	●経営学科２年　中村建太　「タイムロック～誘惑にロックを時間で開く錠～」 ●経営学科２年　吹上文音　「訳あり食材を創作料理に～どんな訳も素敵に変身～」 ●経営学科４年　杉山祐脩　「府りかけ“隠れ名産見ぃ～つけた”」 ●経済学科４年　桂木聡　「～人・企業・地球、みんながよろこぶ～ 『フリーレンタルサイクル』」

大商大ビジネス・アイディアコンテスト 受賞作品一覧

第10回（2012年度）	学長賞	●経営学科２年　田中伸我　「着火線香」 着火線香とは、現在ある線香をより強固するため、圧縮加工・調合段階で固くする薬品を使うことで固くした線香に、マッチの火薬の含まれた赤い部分を線香の片側先端に付け火がつけやすく、危険も少ない、さらに使用しやすくした新しい線香です。
	副学長賞	●経営学科３年　岸畑雅美　「ポップコーンブーケ～大切な人の大切な記念日に～」
	東大阪商工会議所会頭賞	●商学科２年　林亜祐美　「いいとこいっぱいいしきりんかるた」
	NPO法人 東大阪地域活性化支援機構理事長賞	●経営学科４年　大西七瀬　「イヤホールジャんクしょん」
	審査員特別賞	●経営学科２年　長﨑悠　「ドアノブカラーアート」 ●商学科３年　水原春佳　「絶景!! 夕焼けガイドブック」 ●商学科４年　寺西和也　「Remains 遊園地潜入ツアー」
	企業賞	●商学科２年　金田諒平　「なくしても見つかる双子ストラップ」 ●公共経営学科２年　松井歩美　「Thankyoumama! キット」 ●経済学科２年　八木有人　「ふんわりと匂いのする携帯カバー」 ●公共経営学科２年　山﨑大　「ワイヤークラフト組立キット～楽しくリハビリ～」

第11回（2013年度）	学長賞	●商学科３年　岡本梨沙　「脂肪もコストも燃焼!! フィットネスクラブ」 これは利用者の運動量に比例して割引額が増えるシステムを導入したフィットネスクラブです。利用者の努力次第で月会費額を減らすことができるため、フィットネスクラブの主な退会理由である「お金がかかる」「モチベーションが続かない」等の不便・不満点を解消することができます。そして発電型フィットネスマシンや太陽光発電の利用によって、電気代の削減だけでなく売電収益を得られ、経営可能とさせることができます。
	副学長賞	●経済学科４年　桂玲央奈　「ハンズフリー買い物カゴ」
	東大阪商工会議所会頭賞	●経済学科４年　田代翔太　「オシャレ蛍光ワッペン」
	NPO法人 東大阪地域活性化支援機構理事長賞	●経済学科２年　片岡長祥　「広告パーキング」
	審査員特別賞	●商学科１年　山口綾乃　「トライくんとプリクラ撮ろう！」 ●経営学科２年　蔵下真美　「ロケット綿棒」 ●経営学科３年　中西健朗　「ふれあい・ペット広場」 ●経済学科４年　野田将　「～ WorldChips ～」
	企業賞	●公共経営学科２年　中本良輝「ザグザグシアター」 ●経営学科３年　石田幸多「ラクラクプラグ～テラシー君～」

第12回（2014年度）	学長賞	●経済学科４年	田代翔太	「ラグビーボール型寄せ書き用ジグソーパズル」 ラグビーボール型の立体的な３Ｄジグソーパズルです。ただ作って完成のパズルではなく、文字を書くことができ、寄せ書きをしてプレゼントすることができます。使用方法は、まず、プレゼントする人はパズルを完成させて、みんなで寄せ書きを書きます。そして、またばらばらにして箱に戻し、プレゼントします。プレゼントしてもらう人は、そのジグソーパズルを組み立てながら、寄せ書きがどんどん見られるようになっていき、完成させると、すべての寄せ書きが見られるということです。ただ単に色紙に書いて渡すのでは面白みがないが、この商品の利点は、プレゼントする人もしてもらう人も楽しめ、良い思い出作りができる点です。
	副学長賞	●経営学科１年	伊集大悟	「大型車専用カーナビ」
	東大阪商工会議所会頭賞	●商学科３年	三井紀子	「マジカル☆キャリップ～口紅がおちない～」
	NPO 法人 東大阪地域活性化支援機構理事長賞	●商学科３年	坂本達也	「家事っ子～皿洗い編～」
	審査員特別賞	●商学科１年	渡邉葵	「らくらくコーディネートアプリ ～天気に合わせた自分だけの着回し術～」
		●公共経営学科３年	大谷知也	「ランナー用チャリティー自販機」
		●商学科３年	吉田沙織	「左手よごれーぬ」
		●経営学科４年	田中伸我	「ラクラク洗濯バサミ止まる君」
	企業賞	●経済学科１年	林輝	「スクラム咲くらむ～花園の花を咲かせよう～」
		●経営学科４年	田中伸我	「子育てハンガー～恥ずかしがりやな動物たちに服を！～」

第13回（2015年度）	学長賞	●商学科２年	隠樹真由子	「するっと」 私がこのアイディアを思いついたのは、保育園のボランティアをしたときです。自分で靴を履きたいけどまだ手が小さくて履けない、履けたけど左右を逆に履いているというところに着目しました。子どもの上靴についているタグに「するっと」をつけるだけで誰でも簡単に靴を履くことができます。ひっぱる部分には、今人気のキャラクター、無地の物、色で分かれている物など使う人によって使い分けできるようにしたいです。この商品の一番の目的は子どもの自立性を高めることです。この商品が商品化され多くの人に広まってくれることを期待しています。
	副学長賞	●商学科４年	水原春佳	「目標達成カウンター21」
	東大阪商工会議所会頭賞	●商学科３年	平峠佑望	「らくらくプラグ～横並びコンセント対応型～」
	NPO 法人 東大阪地域活性化支援機構理事長賞	●経営学科１年	藤川功基	「達成帳（お手伝い帳、自習帳、ダイエット帳など）」
	審査員特別賞	●経営学科１年	長谷川雄基	「Advertise カフェ」
		●商学科１年	稲岡保准	「目覚まし腹巻き」
		●経済学科２年	久保利勇太	「『パパの休憩所』 ～退屈から家族で楽しくショッピングへ～」
		●経営学科２年	清水千歳	「温故知新文化情報発信型ホームページ」
	企業賞	●経営学科１年	高畑圭大	「フタがパズルになってる弁当箱」
		●経営学科２年	樋口静音	「音量調節インターフォン」

第14回（2016年度）	学長賞	●商学科１年	古川晴加	「ごみもはいるやん」 たくさんの人が、外出先で飴を食べた時、ごみを捨てるためにごみ箱を探したり、カバンのポケットにしまうと思います。それでは、ごみ箱を探すのが面倒、ポケット内でごみが散らばるという問題があります。それらを解決するのが「ごみもはいるやん」です。大きい飴の袋を中央で縦に仕切り、２つポケットを作ったものです。片側には飴を入れ、もう片側には食べた後のごみを入れることができるという商品です。
	副学長賞	●経済学科１年	木村有希	「ぽちっとな～不審者侵入禁止ボタン～」
	東大阪商工会議所会頭賞	●経済学科２年	中岡智哉	「歯ブラシちゃかちゃか」
	NPO 法人 東大阪地域活性化支援機構理事長賞	●経営学科２年	眞鍋梨乃	「ポケット布団カバー」
	審査員特別賞	●経営学科１年	黒田尚希	「エコパッキン「ストッパーくん」」
		●経済学科１年	長濱理子	「～ついたてスタンド～」
		●経営学科２年	藤川功基	「Made in Japan paper ～紙の可能性で暮らしを豊かに（東南アジア編）～」
		●公共経営学科４年	野田健人	「洗うこといらない10回使える箸」
	オーディエンス賞	●経営学科２年	眞鍋梨乃	「ポケット布団カバー」

※企業賞該当アイディア無し。

第15回（2017年度）	学長賞	●経営学科３年	藤川功基	「場所を取らない瞬間組み立て子ども椅子」 瞬間組み立て子ども椅子とは、平らな段ボールを組み立てて子ども用の椅子を作るというアイディアです。また、このアイディアの最大の魅力は組み立てた椅子を平らな段ボールに戻すことができるため、場所をとらないということです。　瞬間で組み立てることができ、仕組みもかなりこだわったことで私も立てるほどの強度にすることができました。また、段ボールなので子どもたちが自由にお絵かきできるなど、独創性を伸ばすことができます。
	副学長賞	●商学科２年	古川晴加	「缶たん水分カッター」
	東大阪商工会議所会頭賞	●公共経営学科２年	足立芽生	「バンデライズスカラシップ～“生涯金融教育型奨学金”～」
	NPO 法人 東大阪地域活性化支援機構理事長賞	●商学科２年	仲谷さくら	「マトリョーシカドアストッパー」
	審査員特別賞	●経済学科１年	平田敦揮	「残りがわかるアルミホイル」
		●経営学科１年	阪口輝虎	「ラクラク Cut」
		●商学科２年	青野英世	「ありがとう葉書（贈り物の受領者の便利アイテム）」
		●商学科２年	杉浦正弥	「断線しにくい君」
	オーディエンス賞	●経営学科３年	藤川功基	「場所を取らない瞬間組み立て子ども椅子」
	企業賞	●経営学科３年	横井咲樹子	「プラゴミボイ」
		●商学科２年	内尾啓汰	「レンチ式ドライバー」
		●経営学科２年	角田陸太朗	「段ボール猫ジム」

第15回大商大ビジネス・アイディアコンテストの取り組みと今後の課題

大阪商業大学　総合経営学部　准教授
起業教育委員会　コンテストワーキング長　金　度渕

本学は「世に役立つ人物の養成」を建学の理念とし、「実学教育」の一環としてビジネスアイディアコンテストを開催してきた。われわれの社会は、情報化の急速な発展とともにビジネスチャンスを模索するベンチャー企業もさることながら、新しいアイディアの創造によるビジネスチャンスの拡大が多くの業界で展開されている。このような近年のビジネス社会における諸問題を発見・解決できる能力を育成すべく、大学生としての無限の可能性を秘めた新しいアイディアの発見を促すよう、ビジネスアイディアコンテストを開催してきた。今年で15回目となる。

学生が日ごろの生活の不便や不満を純粋にアイディアとして提案することは、簡単なようで難しく、そのことが結果的に学生自身がこのようなアイディアコンテストに応募することを躊躇することにつながっているようである。実際に応募学生らの意見を踏まえれば、「授業で出すように指示された」や「ゼミで出すように言われた」などの意見が大半で、一部の学生を除けば、決して自発的ではない状況がこれまで続いてきたのである。

ところが、近年の状況の変化の一つとして、アイディアコンテストへの応募者の低学年化をあげることができる。すなわち、１～２年生らによる応募数が増えつつ、最終審査へ進む確率も高くなってきたことが大きな変化であった。一般論からすれば、勉強や大学生活の経験を積み重ねてきた３～４年生たちが、当然、１～２年生よりも優れたアイディアを出すはずであるが、ここ数年の大商大ビジネスアイディアコンテストでは決してそのようにはなっていない。例えば、今年度の大会においては、最終審査に残ったファイナリスト８名中７名が１～２年生であり、企業賞３名中２名が２年生であった。また、初めて応募総数が1,000件を超えた昨年度においても、同じようにファイナリスト８名中７名が１～２年生となった。これらは偶然の産物ではなく、いくつかの「学生への動機づけ」が作用したことで、このような結果が生じたものであると判断している。

それは第１に、４月に開催されるビジネスアイディアコンテストの説明会やS-Naviを活用した情報発信による「学生への動機づけ」である。新年度が始まる４月の半ばには、自由部門と課題部門の説明会が２週にわたって開催される。アイディアコンテストはどんなコンテストなのか、参加することでどのような事ができるのか、またどのように応募したらよいのか、そして課題提供企業はどんな企業があり、どんなアイディアを募集しているのかなど、アイディアコンテストに関する各種説明とともに、学生からの質問に答える時間を設けている。全学生が参加するわけではないのだが、参加した学生が参加できなかった友人へ情報を伝えることにもつながっているものと思われる。また、本学の学生がスマートフォンなどでいつでも確認ができるS-Naviにアイディアコンテストにかかわる各種案内を発信することで、コンテストを知らなかった学生にも参加動機を与えている。

第２は、教員と職員が一体となって「学生への動機づけ」を行なっている点である。例えば、今年度から始動した教育奨励プロジェクト（テーマ：ビジネスアイディアコンテストへの学生の取り組みを支援する教材および講義計画書の試作およびその検証）を目的として参集した一部のメンバーが、度重なるワーキングを通じて「ワークブック」を作成した。実験的ではあるが、いくつかのゼミにおいて、そのワークブックをそれぞれが担当するゼミ生（２年生～３年生）に対して取り組ませ、アイディアをどのように出したらよいのか、といった基本的な点や大商大ビジネスアイディアコンテストへの参加を促す取り組みをおこなった。学生らは比較的に集中して取り組んでいた様子で、特にそれに参加した学生たちの活躍を、のちの最終審査会の席でファイナリストとして確認することができている。もちろん、このプロジェクト以外においても、諸先生方から授業内での学生たちへの働きかけなどもあり、ここ数年1,000件近い応募者数を記録し続けている。また、ビジネスアイディアコンテストを統括する総合交流支援課のスタッフによる学生への丁寧な対応と管理によって、初めて参加する学生から何度も参加している学生までいつでも相談に行ける環境作りが整ったことで、学生たちが「参加してみよう」「今年こそ学長賞を取ろう」など、モチベーションの向上とともに学生への動機づけがもたらされている。１年近くの期間、応募にかかわる準備やプレゼンテーションがうまくできるような学生たちの「ためになる企画」の考案、さらには説明会や審査会の会場設営などにいたるもろもろの事務的準備のおかげで、学生たちにとってさらに参加しやすい環境作りが整っているといえよう。

第３は、課題提供企業との連携による「学生への動機づけ」である。例年、参加している企業には一企業をのぞいて変更があるものの、毎年２～３社に参加してもらい、アイディアの「商品化」に向けた真剣な取り組みに協力をいただいている。学生たちの純粋なアイディアを企業家目線で客観的に評価をしてもらうことが、結果的に学生のモチベーションの向上へつながってい

るのは言うまでもないが、それらがたんに利益を追求する新しいアイディアを考えるというよりも、むしろ、社会を豊かに、そして便利にしうるアイディアを一緒に考える貴重な取り組みとして行なわれていることで、学生にとっての大切な動機づけの機会となっている。実際に商品化に向けた取り組みとして、すでに商品化されて販売されている商品が4件、現在進行中の商品化事業が3件である。これらの商品化事業の現状は、これまで応募したことがない学生などへの貴重な動機づけ要素となるため、今後も大々的な広報が必要となる。

これまで大商大ビジネスアイディアコンテストは、15回を数えながらもその道のりは試行錯誤の連続であった。記述のプロジェクトメンバーとの議論の中でも、これからどのような方向でビジネスアイディアコンテストを進めていくべきなのかを時間があればお互い話すほどである。また、他大学においても同様のアイディアコンテストが開催される昨今の状況からして、大商大独自の、あるいは大商大だからこそできるビジネスアイディアコンテストはどのようなものであるのかを考えていかなければならない段階にきていると思われる。それには残された課題が多く、いくつかを列挙すれば以下のようになる。

一つ目は、学生が主体的に、もしくは自発的に応募する仕組みをどのように構築していくのかである。学生に対しての必修・義務化であるとか、点数化であるとか、様々な方策はあると思われるのだが、それが実質的に自発的な応募とはならないため、少しでも自発的な応募ができる環境作りが急務となる。この環境づくりは一番の難題でもあるのだが、学生が「とりあえず参加してみる」ことができるように、「参加のしやすさ」を学生に提供できる仕組みづくりが必要ではないかと考える。既述のプロジェクトの関連からすれば、学生への指導時間に何らかの動機づけができる取り組みをさせる方法がもっとも学生の理解と参加を促すシステムとして作用するのではないかと考えている。学生たちのワークブックへの取り組みが、実際の参加率とどの程度つながっていくのかについてはもう少し検証の時間が必要であるため、機会があれば稿を改めたい。

二つ目は、出されたアイディアの商品化に向けた取り組みの継続と拡大である。こればかりは大学単独でできるはずもなく、いわば産学連携が前提となるのだが、既述のように、たんに利益を追求する仕組み作りではなく、あくまでも教育の一環としての商品化を理解する企業との「長期的な連携」が必要となる。つまり、①学生から出されたアイディアについて企業が評価・アドバイスをし、②商品化に向けた取り組みを学生と企業が一緒に行なうとともに、③次のさらなるアイディアの模索ができるような仕組みを作っていく、いわばスパイラルを形成できる長期的な連携を確立していかなければならない。それは「学生が社会を変えられる力」を養う教育こそが、この大商大ビジネスアイディアコンテストの中で達成されていかなければならないからである。

以上のように、大商大ビジネスアイディアコンテストを開催するに当たっては多くの課題が山積しているものの、これからも大商大では実学教育として学生と教職員、そして企業が連携して取り組んでいき、社会を変えられうるアイディアの創造を目指していく。